

図書館通信

日大鶴ヶ丘高校図書館 第1号 令和2年5月発行

図書館部主任より

緊急事態宣言の延長が発表されました。本校も臨時休業期間が5月末日までと延長されました。在校生の皆さん、どんな毎日を過ごしていますか。

学校からは週ごとに学習課題が配信されています。課題に取り組みつつも、皆さんの中にはこのような機会に普段時間がなくてできない趣味を楽しんだり、新たな趣味を見つけたりしている人も多いことでしょう。今だからこそ出来ることを積極的に見つけていくことが大切です。ただし将来を見据えてやっておかなければならないこととのバランスを考えた上で趣味を楽しむこと。バランス感覚は人生で最も大事なものの一つです。

図書館からも皆さんに対して読書案内をと思ったのですが、外出自粛の今、特定の本を紹介するより【青空文庫】をお勧めします。インターネットで検索してください。多くの作家の作品が無料で読めます（ただし著作権の消滅したものです）。そして、出来れば「読書ノート」を付けておきましょう。作品名・作者名・読んだ日付・最も印象に残った一文などをメモしておく程度の簡単な記録で（更に時間のある人は感想を書く、内容をまとめるなどしてもよいのですが、あまりハードルを上げすぎると続かなくなるのでほどほどに）。

このような機会に、本を読む習慣を確立しましょう。

図書館紹介

ここは主に新入生の皆さんに対してです。鶴ヶ丘高校の図書館は身内が言うのもなんですが、かなり充実しています。校舎から独立した建物で2階建て。メインは1階部分で2階は主に学習・閲覧スペースとなっています。蔵書は約5万冊。司書の方が毎日来てくれます。司書の方と各クラス2名の図書委員が図書館の運営に当たっています。委員が中心となり、季節の行事に合わせた館内展



示をしたり、新着図書の紹介ポップを書いたり、文化祭に参加したり、と活動は様々。

ふと気が向いたら足を運んでもらえるような楽しい、そして前来た時とちょっと変わっていると思ってもらえる活動的な図書館を目指しています。学校が再開したら是非ともお立ち寄りください。奥が深いです（実際建物の構造としても）。

読書を通して考えよう

今回の材料は芥川龍之介の小説『蜘蛛の糸』です。読んだことのある人も多いでしょう。まだの人は「青空文庫」を活用してください。

この小説の中で最も心に残った一文はと言われたら、私は最後の「しかし極楽の蓮池の蓮は、少しもそんなことには頓着致しません。」をあげます。擬人法が用いられています。「そんなこと」の指示内容は、直前に書かれているお釈迦様の心中でしょう。

さて、この一文どんな役割をもっているのでしょうか。皆さん、考えてみてください。答えは一つではないかもしれませんが、根拠が示せることが大切です。

学校が再開したら、皆さんなりの回答を図書館に持ってきてください。

編集後記

多少見切り発車的なところがないとは言えませんが、今回の緊急事態をきっかけにこのような通信を作ってみました。図書館では昨年度の終わりごろから閉館状態で、本来の機能が停止しています。新年度直ぐに発注をかけるはずだった購入予定書籍もまだ注文していません。図書館という場所は人がいないと思いのほかに寒いものだというのが実感です。

しかし、気持ちを前向きに、これからはこの通信をより充実したものにしていきたいと思えます。次回からは、図書館の活動報告をかねて、先生方や図書委員のおすすめ本など紹介していく予定です。

